

認知症を知ろう! 第1回

認知症は、誰もがなる可能性があるとともに、誰もが関わることになるかもしれない身近な病気です。認知症になっても住み慣れた地域で暮らし続けるためには、本人や家族だけでなく、一人ひとりが病気について理解し、対応のポイントを知っておくことが大切です。

今回から複数回にわたり認知症の症状や対応の仕方、早期発見のポイントなどについてお話しします。

認知症って何？

脳の病気によって記憶力や判断力が低下する病気で、日常生活に支障が出るまで低下した状態を認知症といいます。認知症には多くの種類があり、症状もさまざまです。



主な症状

記憶障害

さっき聞いたことが思い出せない

見当識障害

時間、季節、場所の感覚が薄れる

理解・判断力の障害

思考スピードが遅くなり些細な変化で混乱する

実行機能障害

手順が分からず、物事を進められない

中核症状

行動・心理症状

抑うつ、怒りっぽい、もの
とられ妄想、不眠など

認知機能が失われる「中核症状」と、性格や環境などの要因が絡み合ってあらわれる「行動・心理症状」があります。

認知症の代表的な種類

アルツハイマー型

認知症の半数以上を占めます。
同じ質問を繰り返す、日にちが分からない
などあります。

血管性

脳の血管の詰まり、破裂により発症します。
そのため手足のまひがあることも多く、
意欲の低下がみられます。

レビー小体型

実際にはないものが見えるなどの幻覚や、
手足の震えなどのパーキンソン症状があります。

前頭側頭型

人格や行動の変化（同じパターンの行動を
繰り返したり、自分本位の行動が目立つ）
や、言葉の障害があります。

老化によるもの忘れ

- ・体験の一部を忘れる
（食事の内容を忘れる）
- ・約束をうっかり忘れる
- ・日常生活への支障がない



と

認知症

の違いは？

- ・体験そのものを忘れる
（食事をしたことを忘れる）
- ・約束自体を忘れる
- ・日常生活への支障がある

第2回へつづく